

往還神社歳旦祭 1月17日



例年通り、地元朝日町大字柿の氏神、<sup>いじり</sup><sup>ごんね</sup><sup>ぎ</sup>井後神社権禰直である桐山さんに来ていただきました。歳旦祭は本来元旦に行うものであるが、少し遅れて行っています。朝日町には各大字ごとに神社とお寺があります。ただし、最近開発された白梅や向陽台にはない。井後神社は大字柿、旧柿村の村社である。創祀年代は詳らかではないが案外歴史ある神社である。

延長5年(927年)にまとめられた延喜式神明帳に「朝明郡24座の内井後神社」とあり、その頃には存在していた。春と秋のお祭りを「おたがさん」と呼ぶ。「多賀さん」と書くように、滋賀県にある多賀大社と関係があるのでその様に、昔から呼んでいる。多賀大社は天照大神のご両親である伊邪那岐命(イザナギノミコト)・伊邪那美命(イザナミノミコト)を祭っている神社である。井後神社境内にはこの多賀大社伊邪那岐命(イザナギノミコト)・伊邪那美命(イザナミノミコト)を祭る摂社がある。

少しややこしいが、江戸時代、この神社は「貴船大明神」といわれていて、京都の貴船神社に祭られている「高お神」、「大山祇神」も祭られている。日本書紀に「一書(代七)にいう。伊弉諾尊が剣を抜いて軻遇突智(火の神)を斬って三つに断たれた。その一つは雷の神となった。一つは大山祇神となった。一つは高竈となった。」高竈を簡単に書くと高お神となる。高竈は水の神であり、この貴船大明神が江戸時代まで旧朝日町南保育園近くの田んぼの真ん中にあったことを考えると、雨乞いと関係あったかもしれない。尚、イザナギ、イザナミを漢字で書くと古事記では伊邪那岐・伊邪那美と、日本書記では伊弉諾・伊弉冉と書く。ミコトも、各々命、尊と書く。